

第 176 回 板橋区の輪島聞声像と里見達雄像

筆者：林 久治（記載：2021 年 12 月 1 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\)のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要な不可欠である。東京五輪一パラの開催期間には、東京都の感染者数は 4-5 千人/日となったが、閉会すると二千人以下に収まっている。やはり、五輪の影響が絶大だったのは明白である。

10 月 17 日以来、東京都での患者数は 50 人/日以下になり、10 月 28 日以来は 11 月 9 日まで 31 人/日以下を保っている。このような急激な減少は好ましいが、原因を解明して今後のリバウンドに備えなければならぬ。このような感染状況を考慮して、私と家内は 10 月 31 日から 11 月 9 日まで大阪に滞在した。私はこの機会を利用して、銅像探索を出来る限り決行した。[173回の記事/f](#)では、奈良市の銅像探索の探索記を記載した。また、大阪で早川徳次像と石坂泰三像を探索し、その探索記を [174回の記事/f](#)に記載した。

私は東京に帰宅してから、東京での銅像探索を再開した。11 月 17 日には、豊島区の野尻父子像と長谷川良信像とを探索し、その探索記を [前回の記事/f](#)に記載した。この記事を書いている時に、私は次の事項を初めて知った。①1919 年に、長谷川先生は現在の淑徳巣鴨中学高等学校を創立した。②この学校の源流は、輪島聞声が 1892 年に創立した淑徳女学校である。③ [2\)のサイト/p](#)によれば、輪島聞声先生の銅像が、板橋区の淑徳中学校・高等学校に設置されている。

輪島像は [1\)のサイト/](#)に収録されていないので、私は本像を探索することとした。しかし、本像が設置されている学校をアポ無しで訪問しても、守衛所で門前払いを食ってしまう危険性が多い。私は「本像は是非拝見したい」と思ったので、11 月 25 日に学校に電話をかけて銅像拝観をお願いした。幸い、「どうぞ」との有難い返事を頂いたので、26 日に本校を訪問した次第である。本稿はその探索記である。なお、本稿では資料からの引用を **緑文字** で、私の注釈や意見は **青文字** で記載する。

次ページの図 1 には、淑徳中学校・高等学校 (**以後は、本校と書く**) のアクセス地図を示す。

(2) 淑徳中学校・高等学校（板橋区前野町 5-14-1）

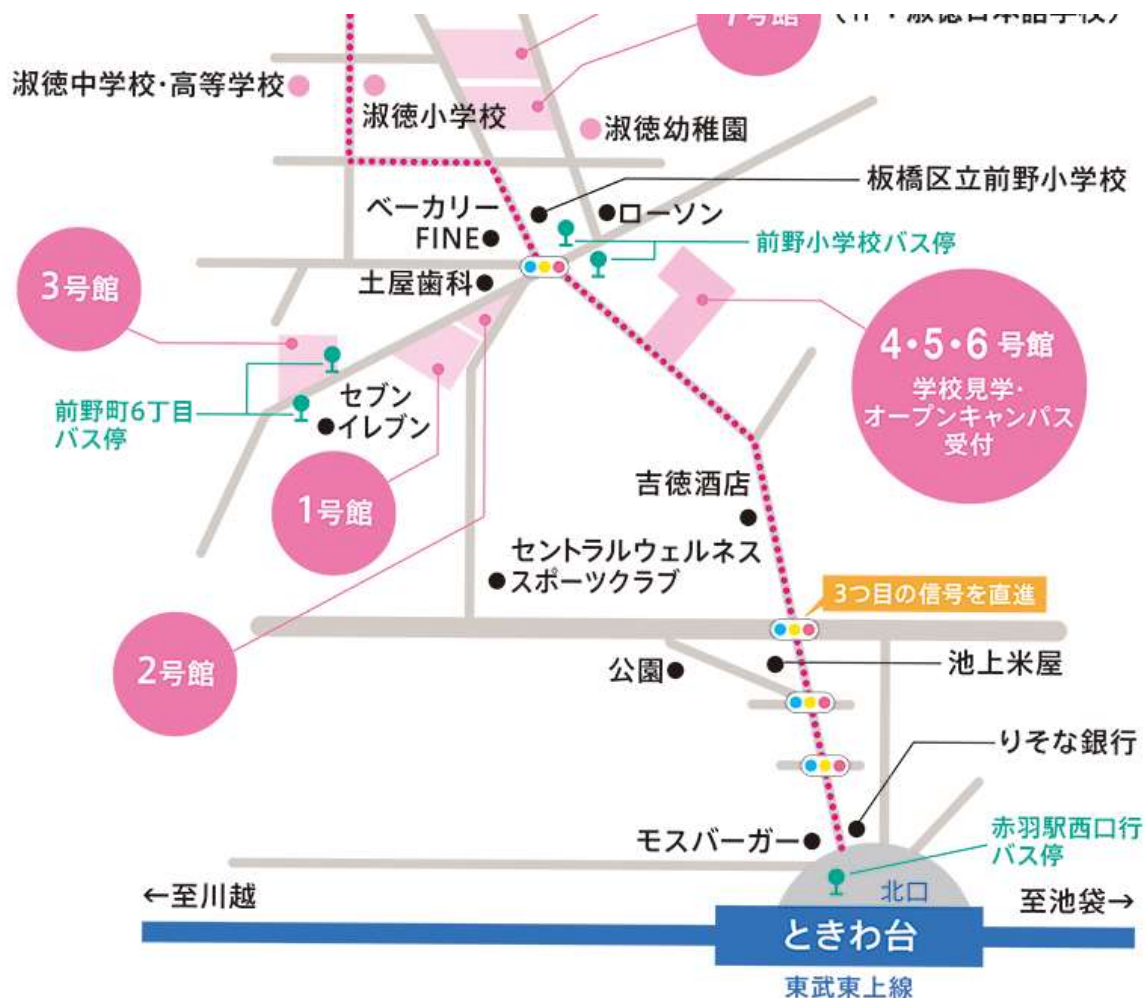


図1. 淑徳中学校・高等学校のアクセス地図 本図は、[3\)](#)の[サイト/1](#)より借用。

本校の最寄駅は、都営地下鉄三田線の志村三丁目駅と東武東上線のときわ台駅である。私は11月26日の朝、ときわ台駅から本校に行ったので、ときわ台駅からのアクセス地図のみを図1に示す。「ときわ台駅」から「前野小学校」を経由して「赤羽駅西口」に行く国際興業バスの路線があり、運行頻度も多くて便利である。一方、ときわ台駅界隈は「板橋の田園調布」と言われており、ださい印象の板橋区の中ではこの界隈が一等地である。そこで、私は運動を兼ねてバスに乗らず、「ときわ台駅」から「前野小学校」まで歩いて行った。

[4\)](#)の[サイト/2](#)によれば、本校を運営する大乘淑徳学園の略歴は次の通りである。

「学校法人大乗淑徳学園」は大乗仏教精神を建学の精神とする、幼稚園から大学までを擁する総合学園。法人本部は東京都板橋区前野町。創立者は長谷川良信。1949年4月に「浄土宗教育資団」が経営する「淑徳女学校」と「(財)大乘学園」の「巣鴨女子商業学校」が合併して「(財)大乘淑徳学園」を設立、翌年学制改革により学校法人となる。源流の一つである「淑徳女学校」は1892年に小石川伝通院境内の一角に輪島聞声によって創立された。1903年には浄土宗に委譲、1906年には高等女学校令によって校名を「私立淑徳高等女学校」と変更し発展。その後第二次世界大戦中の1944年に長谷川良信が八代校長に就任し、翌年5月戦災によって校舎が全焼した。復興にあたり学校移転問題が起こり、1946年に文京区小石川と板橋区志村の二校併立の協定書を交わすと、同年12月板橋区前野町の現在地

に移転し、「淑徳中学校、淑徳高等学校」が発足した（現在の校名も同じ）。もう一つの源流である大乘学園の「巣鴨女子商業学校」は、社会事業の先駆者で教育者でもある長谷川良信が1919年に設立した「隣保事業マハヤナ学園」を淵源とし、1931年に甲種商業学校として認可された学校（現在の校名は淑徳巣鴨中学・高等学校）。こうした学校法人設立の経緯に鑑み、学園では輪島聞声を「校祖」、長谷川良信を「学祖・創立者」と称している。校祖・学祖の教え、建学の精神は、学祖の編んだ『大乘淑徳教本』を基本に改訂された教本によって全教職員・学生・生徒・児童に伝えられ、毎年春には建学式ならびに教職員特別研修会が催されている。設置する学校は、淑徳大学、淑徳大学短期大学部、淑徳中学・高等学校、淑徳巣鴨中学・高等学校、淑徳与野中学・高等学校、淑徳小学校、淑徳幼稚園、淑徳与野幼稚園、淑徳日本語学校等で、他に長谷川仏教文化研究所等があり、東京・埼玉・千葉の一都二県に六キャンパスをもつ。（なお、1946年に文京区小石川に残留した学校は、「学校法人淑徳学園」が運営する「淑徳学園中学校・高等学校」となり、2008年に「淑徳SC中等部・高等部」に校名を変更した。）

（3）淑徳中学校・高等学校の里見達雄像

上記の経緯で、私は11月26日の午前10時頃、本校の正門に着いた。その写真を図2に示す。この門は、[前回の記事/f](#)に記載した淑徳巣鴨中学校・高等学校の正門とよく似ていた。



図2. 淑徳中学校・高等学校の正門

正門の向かって左側に守衛所があったので、私は「昨日、事務室に電話しました林ですが」と名乗り出た。守衛のオジサンには私の来意が伝わっていて、「受付に行ってください」と言われた。正門から受付のある校舎までは綺麗な庭園になっており、校舎前に輪島聞声先生の小ぶりの胸像が設置されていた。（なお、本校の景色は綺麗なため、学園物の映画やドラマの撮影によく使われるそうである。）受付の玄関の写真を次ページの図3上に示す。玄関内には、胸像がもう1基見えた。「これは誰の像であろうか？」と私は興味深々であった。

（本文は5ページに続く。）

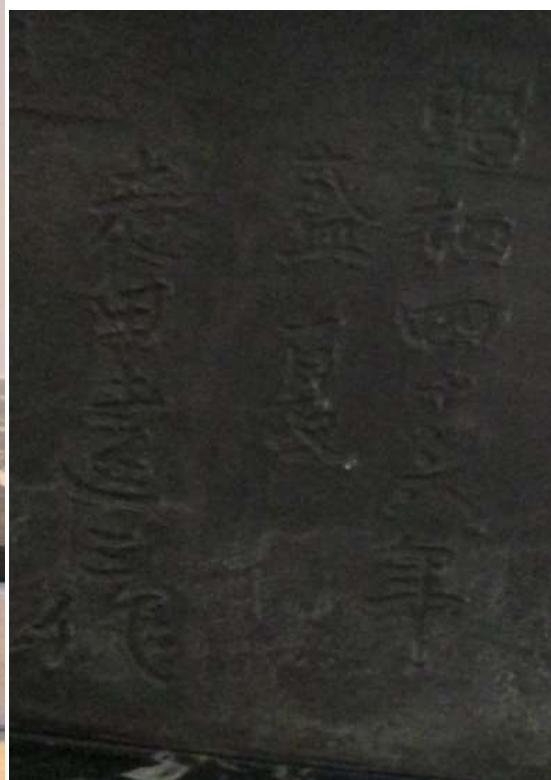


図3. 上：受付の玄関、下左：里見達雄先生像、下右：本像背面のサイン。

私は受付のオバサンに「昨日、電話しました林です。輪島先生の銅像を拝見に参りました」と申し出た。それから、私は彼女に「こちらにも銅像がある事は、知りませんでした。こちらの写真も撮ってよろしいでしょうか?」と聞いてみた。彼女の了承を得て撮影したのが、図3下左の写真である。題字には「里見達雄先生」と書かれていた。

本像は壁際に設置されていたので、背後に廻れなかった。そこで、本像と壁の間隙にカメラを差し込んで背面を撮影した。その写真を図3下右に示す。背面に彫られた文面は何とか判読出来て、「里見達雄先生の像 昭和四十六年盛夏 志田達三作」と彫られていた。

「さて、里見達雄先生とはどんな方だろう?」と思っていると、胸像横の壁に「故里見達雄先生をしのぶ」と題する追悼文が貼られていた。本文を以下に示す。

故里見達雄先生をしのぶ

里見先生とお呼びしてもお答はありません

然しニッコリとほゝえみをたゝえ私共に答えて下さる顔が目の前に浮かんでまいります。こがねの庭花ふる報土に於いての日々は、穢土のいとなみより更にお忙しく菩薩行にいそしみ給うことゝ存じ上げます。

先生は大乗淑徳学園の生みの親であり、また育ての親とも申せます。

顧みれば忘れることのできない二十年でした。敗戦の焼土の中、我が淑徳女学校もその厄をまぬがれ得ずいかんともする能わざる痛手の中に、生徒たちが焼け残りの建物で授業を受けていたことなど今なお目に残って居ります。

小石川伝通会館の焼けただけ赤さびたガラスのない窓わくを通して見る授業風景に今日では想像もつかない程の光景でした。どうしてこのまゝ真剣に学ぶ生徒達を捨てゝおかれようか、校舎が一日も早く欲しい、また必要であるとの念願から本校を現在地、板橋区に移すことに決定しましたあの時の宗務総長でいらした先生と大乗淑徳学園前理事長長谷川良信師とが、教育信念に燃える情熱とお互いの友情もだし難きものあって、淑徳学園と大乗学園とが遂に合併し新たに学校法人大乗淑徳学園の誕生を見るにいたつたのであります。

其後今日に及ぶまでには紆余曲折波乱万丈幾多の苦難がありました先生は常に巖の如く学園理事として又本校校長として数多の公職、寺門経営はもとより壇信徒の指導に当たられるなどありながら二十年の歳月を十年一日の如く学園経営の難しい時、誠に始終その英知と情熱を振り向けられ我々に適切な指導とあつせんを下されてまいりましたことは今更蝶々とするまでもありません。

昨年先生が病魔におかされ給いしを耳にしてその床を訪れました。案じておりましたよりお元気でいられたのでひと先ず安堵の胸をなでおろし足どり軽く帰途についたのであります。然しその後再度の入院、つゞいてお宅での御静養と承り速急保元寺様にお伺いし、親しくお目にかかりました。

おいたわしく病軀のなかにも合掌のお姿が神々しいまでに透徹し、そのすが〜しきは全く能化大導師とこそ拝されました。若しかしたら是れが当分のお別れかと思うと無性になつかしさや、淋しさが一時にこみ上げてきまして廊下の足どりも重くかなうございました。

床の中にいらしてもお声がなくとも、凡愚の私共に御心で語りかけ指導して下さる支えがほしうございました。

先生が此のようにして私共学園のみならず教育者としての道を二十年に及んで歩まれたその功は大きく、昭和四三年には教育功労者としての賞を都知事よりお受けになられ、同四四年には勲五等双光旭日章を受けられるの榮譽に与りました事は我が学園としても此の上ない名誉であります。

又先生は教育に深い理解を持たれると同時に終戦後混乱の宗教界の中であって、宗政を一身に背負われるなどは今更申すに及ばぬ事ではありますが、晩年増上寺の御法主を助け寺門の復興を終生の仕事として病軀をおして御奉仕されてまいられました。実にそのお姿こそ菩薩業そのものであられます。

このように申し上げますと、くめどもつきぬ泉の如く先生に対する感謝の念と思い出が次々と湧出てまいります。先生本当に有難うございました。願わくば先生、還来廻国されまして学園の理想実現の為お力をたれ給わんことを学園教職員役員を代表して長年に亙る御指導に対してお礼申し上げ、謹んで哀悼の意を表します。

昭和四七年六月十七日 長谷川よし子

今回の銅像探索で、私は里見先生のお名前を初めて知った次第である。そこで、帰宅してから里見像に関して色々と調査した。その結果、次の事項が分かった。

①私は里見達雄像に関するネット記事を検索したが、本像に関する記事は全く存在しなかった。つまり、「**本像は銅像研究界の新発見である!**」と考えられる。

② [5\) のサイト/4](#)によれば、里見先生の略歴は次の通りである。

里見達雄（たつゆう、1895－1972. 4. 30）先生は、近代浄土宗宗政家として活躍し教育界にも大きな足跡を残した。渡辺海旭門下。宗門功労者。1917年に宗教大学卒業後、仏典研究に専念、ついで東京浅草保元寺住職（中興以後三世）となる。1932年に浄土宗庶務部長を経て、1938年に浄土宗務総長に就任。戦後は日本宗教連盟理事長・福祉法人東京養老院理事長として宗外、社会に向けての活動に邁進した。1952年には増上寺顧問、学校法人大乘淑徳学園理事兼淑徳本校校長として教育に心血を注ぎ、のち短期大学学長も兼ねた。1963年に椎尾弁匡法主の懇請を受け増上寺執事長に就任、現在の大殿復興に尽瘁、立柱式を成満するも、完成直前に入寂した。著書に『仏教道徳経集』『法華三部経』等の和訳論がある。

③ [6\) のサイト/n](#)によれば、長谷川良信先生の夫人であった「りつ子女史」と「よし子女史」の略歴は次の通りである。

長谷川りつ子（1899～1935）：〔 〕は現称。静岡県田方郡三島町〔三島市〕に生まれる。三島高等女学校〔三島北高〕・共立女子職業学校〔共立女子大〕卒後、佐野農業補習学校〔裾野高〕の教員となる。榛原高等女学校〔榛原高〕退職後、長谷川良信と結婚。開校間もない巢鴨家政女学校〔淑徳巢鴨高〕の教員・運営のほか様々な社会事業活動に従事。マハヤナ学園でよし子と出会う。35歳の時、脊椎カリエスと診断され療養。昭和10年没、享年37。

長谷川よし子（1907～1996）：愛知県幡豆郡西尾町〔西尾市〕に生まれる。里親を遍歴して育ち、尼僧となる。日本女子大学校と東洋大学で社会事業を学ぶ。マハヤナ学園でりつ子と良信に出会い、後に還俗して結婚。マハヤナ学園理事・撫子園施設長を歴任。淑徳大学を開学した翌年逝去した夫の後を継ぎ、大乘淑徳学園・マハヤナ学園理事長、巢鴨女子商業高校・中学校〔淑徳巢鴨高・中〕校長も務めた。平成8年没、享年88。

④本像の制作者である志田達三氏の名前は、[7\) のサイト/n](#)に下記のように書かれているが、志田氏の経歴は不明である。

志田達三「プレイスカルプチャーについての考察」『教育美術』第20巻第1号、1959年、28-29頁

志田達三「野外彫刻の共同製作」『初等教育資料』第128号、文部省、1960年、23-25頁

以上の資料などにより、里見像の概要は次の通りである。

里見達雄先生胸像

設置場所：板橋区前野町 5-14-1 淑徳中学校・高等学校 事務室受付前

制作者：志田達三

設置時期：1971年盛夏

追悼文：1972年6月17日 長谷川よし子（長谷川良信の妻）の書

設置経緯：里見達雄（たつゆう、1895－1972. 4. 30）先生は、近代浄土宗宗政家として活躍し教育界にも大きな足跡を残した。渡辺海旭門下。宗門功労者。1917年に宗教大学卒業後、仏典研究に専念、ついで東京浅草保元寺住職（中興以後三世）となる。1932年に浄土宗庶務部長を経て、1938年に浄土宗宗務総長に就任。戦後は日本宗教連盟理事長・福祉法人東京養老院理事長として宗外、社会に向けての活動に邁進した。1952年には増上寺顧問、学校法人大乗淑徳学園理事兼淑徳本校校長として教育に心血を注ぎ、のち短期大学学長も兼ねた。1963年に椎尾弁匡法主の懇請を受け増上寺執事長に就任、現在の大殿復興に尽瘁、立柱式を成満するも、完成直前に入寂した。著書に『仏教道德経集』『法華三部経』等の和訳論考がある。

（4）淑徳中学校・高等学校の輪島聞声像

正門から受付のある校舎までは綺麗な庭園になっており、校舎前に輪島聞声先生の小ぶりの胸像が設置されていた。その周辺の写真を図4に示す。次ページの図5上に輪島聞声先生胸像の写真を、図5下左に本像背面の銘文を、図5下右に台座正面の銘文を示す。台座正面には「輪島聞声先生」のプレートが貼られており、「進みゆく世におくれるな 有為の人となれ」との銘文が彫られていた。私は「この銘文はあまり仏教的ではない」と思った。

（本文は9ページに続く。）

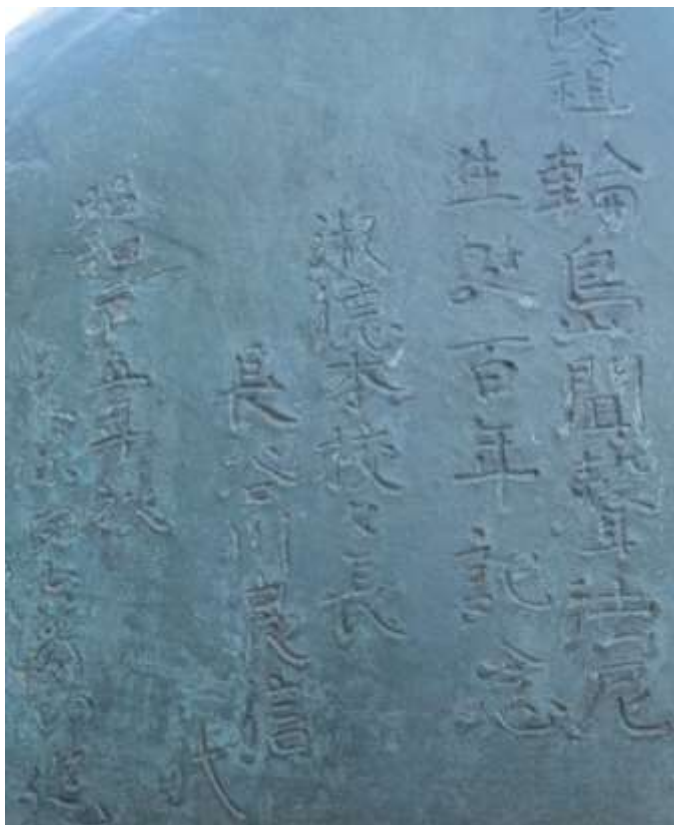


図4. 輪島聞声像周辺の庭園



図5.

上：輪島聞声先生胸像。
 下左：本像背面の銘文、
 下右：台座正面の銘文。



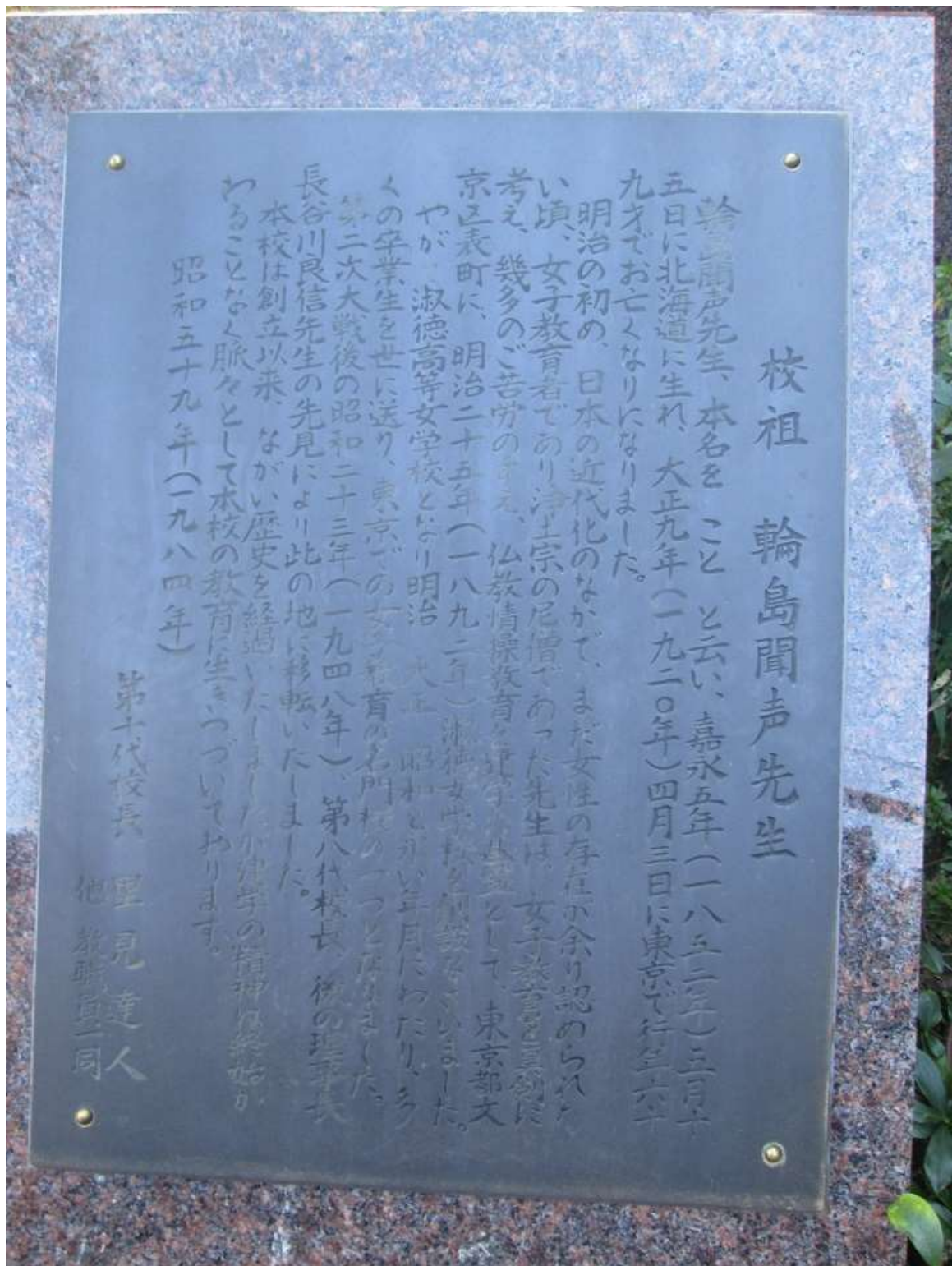


図6. 輪島像横の石碑

本像背面の銘文には「校祖 輪島聞聲法尼 生誕百年記念 淑徳本校々長 長谷川良信代 昭和二十五年秋 久保田吉太郎作」と彫られていた。図4に示すように、輪島像の横に石碑が設置されていた。その写真を図6に示す。本碑には、次のように書かれていた。

校祖 輪島聞声先生

輪島聞声先生、本名を こと と云い、嘉永五年（一八五二年）五月十五日に北海道に生まれ、大正九年（一九二〇年）四月三日に東京で行年六十九才お亡くなりになりました。

明治の初め、日本の近代化のなかで、まだ女性の存在が余り認められない頃、女子教育者であり浄土宗の尼僧であった先生は、女子教育を真剣に考え、幾多のご苦勞のすえ、仏教情操教育を建学の基盤として、東京都文京区表町に、明治二十五年（一八九二年）淑徳女学校を創設なさいました。

やがて淑徳高等女学校となり明治大正昭和と永い年月にわたり、多くの卒業生を世に送り、東京での女子教育の名門校の一つとなりました。第二次世界大戦後の昭和二十三年（一九四八年）、第八代校長、後の理事長長谷川良信先生の先見により此の移転いたしました。

本校は創立以来、ながい歴史を経過いたしましたが建学の精神は始終かわることなく脈々として本校の教育に生きつづいております。

昭和五十九年（一九八四年） 第十代校長 里見達人 他教職員一同

私は本稿の2ページに「1944年に長谷川良信が八代校長に就任」と書いた。[前回の記事/f](#)に、私は「長谷川先生は1966年8月4日に亡くなった」と書いた。図6の石碑より「里見達人先生が十代校長であった」ことが分かる。また、私は本稿の5ページに「里見達雄…先生は常に巖の如く学園理事として又本校校長として」と書いた。以上の記載を繋ぎ合わせると、本校の校長先生は次の順番であったのではなかろうか。

八代校長：長谷川良信（在任：1944年－1966年8月4日）

九代校長：里見達雄（在任：1966年－1972年4月30日）

十代校長：里見達人（在任：1972年－？）

里見達人先生はお名前からして里見達雄先生のご子息のようだ。[8\)のサイト](#)（発行日 2009年10月31日）には、先生のプロフィールが次のように書かれている。

1924年、台東区の浄土宗保元寺に生まれる。旧制大正大学文学部国文学科卒業。日本宗教連盟理事長、全日本仏教会理事長、大正大学理事長、華頂学園理事、浄土宗教育資団監事、浄土宗奨学会理事、浄土宗報恩明照会理事長等を歴任し、勲四等旭日小綬章、東京都教育功勞賞を受章。現在、大本山増上寺顧問、宗教法人保元寺代表。

上記の記事により、「里見達雄先生は1895年生まれなので、達人先生が達雄先生のご子息である」ことは自然である。

また、[9\)のサイト](#)（令和3年4月1日現在）には、里見達人先生はお名前が掲載されている。学校法人大乘淑徳学園役員：里見達人（常務理事）

この記事により、「里見達人先生は2021年4月1日にはご存命」であることが分かった。

[10\)のサイト/0](#)によれば、によれば、輪島先生の略歴は次の通りである。

輪島聞声（もんじょう、1852年5月15日－1920年4月3日）先生は、明治尼僧界の第一人者で、東京の淑徳女学校の創立者。東京本所荒井町感応寺、鎌倉聞声庵の住職。北海道松前藩の城下福山町（現・松前郡松前町）の旧家輪島屋五代目太左衛門とかねの三女。幼名を「こと」といった。両親はともに仏教信仰に篤く、輪島家ではしばしば仏教者の和田瑳門を招いて仏法を聴聞した。こと18歳のとき願い出て瑳門の弟子となり、仏典の講義を聴講した。25歳になって両親に出家の許可を得て、1876年、東京回向院福田行誠のもとで得度し、聞声と号して東京感応寺に住した。1879年8月、聞声は京都へ遊学、浄土宗総本山宗学校、泉涌寺佐伯旭雅の性相学の講義をきき、智積院で天台学や唯識論を学んだ。京都で浄土宗学尼衆京都支校付属尼衆教場を開き（1888年2月）、東京では浄土宗学東京支校付属尼衆教

場を設立した（1889年）。後、尼衆教育をさらに一歩進めて、女子の普通教育の淑徳女学校を創設した（1892年9月）。聞声の教育理念は仏教の信と忍に基づく新しい教育と言え、自身の信仰は親ゆずりの弃天信仰と浄土教（律）である。

本像制作者の久保田吉太郎氏の情報は極めて少ないが、[11\) のサイト/1](#)に次のような記載があった。

久保田金僊（1875-1954）の別名は久保田金仙と久保田吉太郎。

以上の資料などより、輪島像の概要は次の通りである。

輪島聞声先生胸像

設置場所：板橋区前野町 5-14-1 淑徳中学校・高等学校 事務室前庭園

制作者：久保田吉太郎（1875-1954）

製作時期：1950年秋 校祖・輪島聞声法尼 生誕百年記念

設置経緯：輪島聞声（もんじょう、1852.5.15-1920.4.3）先生は、明治尼僧界の第一人者で、東京の淑徳女学校の創立者。東京本所荒井町感応寺、鎌倉聞声庵の住職。北海道松前藩の城下福山町（現・松前郡松前町）の旧家輪島屋五代目太左衛門とかねの三女。幼名を「こと」といった。両親はともに仏教信仰に篤く、輪島家ではしばしば仏教者の和田瑤門を招いて仏法を聴聞した。こと18歳のとき願い出て瑤門の弟子となり、仏典の講義を聴講した。25歳になって両親に出家の許可を得て、1876年、東京回向院福田行誠のもとで得度し、聞声と号して東京感応寺に住した。1879年8月、聞声は京都へ遊学、浄土宗総本山宗学校、泉涌寺佐伯旭雅の性相学の講義をきき、智積院で天台学や唯識論を学んだ。京都で浄土宗学尼衆京都支校付属尼衆教場を開き（1888年2月）、東京では浄土宗学東京支校付属尼衆教場を設立した（1889年）。後、尼衆教育をさらに一歩進めて、女子の普通教育の淑徳女学校を創設した（1892年9月）。聞声の教育理念は仏教の信と忍に基づく新しい教育と言え、自身の信仰は親ゆずりの弃天信仰と浄土教（律）である。

参考資料

1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>

2) のサイト：https://www.schoolnetwork.jp/jhs/shingaku_tsushin/tsushin-202020/school-31.php

3) のサイト：<https://www.jc.shukutoku.ac.jp/college/access.html>

4) のサイト：

<http://jodoshuzensho.jp/daijiten/index.php/%E5%A4%A7%E4%B9%97%E6%B7%91%E5%B3%E5%AD%A6%E5%9C%92>

5) のサイト：

<http://jodoshuzensho.jp/daijiten/index.php/%E9%87%8C%E8%A6%8B%E9%81%94%E9%9B%84>

6) のサイト：[長谷川りつ子/長谷川よし子（シリーズ福祉に生きる第69巻） | 米村美奈, 津曲 裕次 | 本 | 通販 | Amazon](#)

7) のサイト：

https://www.jstage.jst.go.jp/article/crs/17/0/17_63/_article/-char/en

8) のサイト：[20200624053509edb0b2ae14f9b106456b7c82f5.pdf \(jbf.ne.jp\)](#)

9) のサイト : [trustee_2021.pdf \(shukutoku.ac.jp\)](#)

10) のサイト : [輪島聞声 - 新纂浄土宗大辞典 \(jodoshuzensho.jp\)](#)

11) のサイト :

<http://webcatplus.nii.ac.jp/webcatplus/details/creator/161343.html>